

# 事業者における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：令和 3 年 3 月 19 日

事業所名 ワーカーズコープこもれば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	②	職員の配置数は適切である	○			
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	玄関やトイレには手すりを設置している。	玄関の上り框に設置できるスロープの導入を検討する。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○	職員会議等で話し合いを行っている。	参画している職員と参画していない職員の差がある。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPの他に、事業所玄関にも掲示している。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			外部研修など、研修を受ける職員に偏りが見られる。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている		○		一部の職員で決めることが多い。職員会議で全職員から意見を聞いていく。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		屋外・屋内グループなど、各グループに分かれて活動を行っているが、マンネリ化している面はある。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	大まかな課題は決めているが、その日の利用者の状況で適宜変更している。	屋外・屋内グループなど、各グループに分かれて活動を行っているが、細やかな設定は出来ていない。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○		利用者によっては集団活動ができる部分とできない部分があり、個別活動に重点を置いて計画を作成する事が多い。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		サービス提供開始前に打合せを行っている。	サービス提供開始前に打合せを行ってはいるが、ごく簡単なことが多い。支援内容の役割分担はしているが、本人の確認不足で分担出来ていない時がある。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	毎日ではないが、気になる点があった場合には送迎終了後に情報共有をしたり、後日ケース会議等で振り返りを行っている。	支援の振り返りが共有できていない部分もある。

	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		職員・ケース会議にて記録の書き方や支援方法について話し合いを行っている。	
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		ケース会議で問題を提起して考えている。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		工作、外食や買い物体験、外部から講師を呼んでミュージックケアを行っている。	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、令和3年3月現在ミュージックケアは中止している。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			現在、担当者会議が行われていないが、今後行われる際には参画する。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			現在、該当する利用者はいない為、体制は整えていない。今後該当する子どもを受け入れる場合は連絡体制を整える。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			相談支援事業所から就学前の情報提供はあるが、直接の繋がりはない。情報を共有できるように努めていきたい。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			現在、該当する利用者はいないが、今後該当者が出た場合は情報を提供する。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			専門機関との繋がりはない。コンタクトを取って行きたい。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			地域の児童館等のイベントに参加し、交流する機会を設けたい。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			時間的に参加が難しいが、協議会が開催される際は参加したい。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳や送迎時、面談の中で話し合いを行い、課題や状況を相互理解している。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			連絡帳や送迎時、面談の際に相談された時は助言を行っている。
	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			見学・契約の際に説明を行っている。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			面談時に相談を受け、助言と支援を行っている。

保護者への説明責任等	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		前年度は保護者・地域交流を目的とした「みんなの食堂」を実施していたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施出来ていない。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情窓口に関する書面を事業所玄関に掲示している。	
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行動予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		『こもればだより』を発行し、活動や行事の情報を発信している。	
	③⑤	個人情報に十分注意している	○		就労契約時に誓約書を交わしている。	
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		先生や保護者、相談支援員と情報共有を行い、ジェスチャーや絵カード等を用いて意思の疎通を行っている。	
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		前年度は保護者・地域交流を目的とした「みんなの食堂」を実施していたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施が出来ていない。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		現場研修でマニュアルの読み合わせ等を行っている。	令和2年5月に保護者へ各マニュアルを記載した「緊急時における施設での対応について」の配布を行った。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回、避難訓練を行っている。	
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待について現場勉強会や研修等に参加している。	
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		利用契約時に「緊急やむを得ない身体拘束に関する同意書」にて説明を行い、支援計画の面談の際にも説明し、了解を得た上で計画に記載している。	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		現在、該当利用者が居らず、医師の指示も受けていないが、保護者からの指示に基づいて食事提供を行っている。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。